



クリスマスには教会へ行こう!

スロバキア地方のクリスマス飾り



第13回通常シノドス テーマ「信仰伝達のための新しい福音宣教」
宮原司教 日本司教団代表として参加 出会いを語る



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行所 人
カトリック福岡司教区三
編集人 森山信三
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

12月の意向

教皇様の意向のために祈りましょ
【一般】移住・移動者
【宣教】人類の光、キリスト
【日本の教会】
日本の教会における召命の促進

シノドス（世界代表司教会議）とは、世界の異なる地域から選出された司教たちが一定時に会合する「司教の集会」です。その目的は、①ローマ教皇と司教たちとのより緊密な関係と交わりを助長し、②信仰・倫理の擁護と向上、また教会規律の遵守や強化のために助言を通してローマ教皇を補佐し、③さらに世界における教会活動の諸問題を研究するためです。

その任務は、提起された問題を討議し、意見を具申することであって、決して問題を解決することや問題に関する決定を出すことではありません。あくまでもローマ教皇を補佐する諮問機関です。教皇はシノドスの提言を受けた後、取り扱ったテーマに関する「自発教令」を發布します。

シノドスには「通常会議」、「臨時会議」、「特別会議」の三種類がありますが、今回は3年に一度開催される通常会議でした。

今回のシノドスのテーマは「信仰伝達のための新しい福音宣教」でした。

バチカンのシノドス事務局は昨年このテーマに関する「提題解説」を発行し、全世界の司教協議会、男女修道会の国際協議会、教皇庁の諸機関に配布して意見を求めました。日本司教協議会も各教区と日本の男女修道会に同「提題解説」に対する提言を求め、

それらの総括文を2011年10月7日の特別臨時司教総会で審議した後バチカンに提出しました。

シノドス事務局は全世界から寄せられた回答を「討議要綱」にまとめ、今年7月シノドス参加予定者全員に配布しました。この「討議要綱」に基づいて、10月7日から28日まで約3週間「信仰伝達のための新しい福音宣教」を様々な角度から審議しました。

審議された主な要点は、①新しい福音宣教の本質は何か、②教会を取り巻いている現代の社会的・文化的現状とその課題は何か、③教会はこれらの課題に何を答えたらよいのか、④それらの具体策を誰がどのように推進していくか、というように焦点を絞って、最終的に58の提言にまとめ、教皇に提出しました。同時に、審議された内容は「神の民へのメッセージ」として別の文書でまとめられ、公表されました（訳文はカトリック中央協議会ホームページに掲載）。

シノドスを構成する参加者は、大多数が各国の司教協議会から選出された司教ですが、それ以外にも教皇から直接指名された司教、教皇庁の高位聖職者、男女修道会の代表者、世界的に活動している信心会や運動グループ、国際的な宗教連盟や聖書協会などの代表者、神学顧問や事務局スタッフも含め総勢370人程度の参加者でした。オブザーバーも含め参加者の大半が発言を許可され、3週間で400人（一人複数回も含む）

以上の発言があったと報告されました。ただし、最終的な文書である「教皇への提言」と「神の民へのメッセージ」に関する投票権を有する参加者は263人でした。

シノドスの感想は、責任の大きさに重圧もありましたが、それ以上に教区民をはじめ沢山の方々の祈りに支えられていることを実感でき、それが重荷以上の喜びと希望になりました。さらに、シノドス会場では、毎日最初に「教会の祈り」の3時課を歌唱した後で会議が始まりましたが、教皇を中心に世界中の代表司教たちと心を一つにして三位一体の神を讃美し、感謝し、赦しを願う、嘆願ができたことは何物にも変え難い素晴らしい体験でした。

また、世界中から参加している司教や修道者、信徒に出会えたこと、特に宿泊所が一緒だった司教たちとの間で食事中に交わされた情報交換は貴重な体験でした。特に、毎日死者が絶えない悲惨な戦乱状況をシリアの司教から直接聞いたこと、またアテネ、エルサレム、バグダット（イラ

ク、ウクライナなどの中東や東欧の社会情勢や東方典礼の話など、世界各地の教会事情や社会・政治・文化の諸事情に関する情報を聞いたことは有意義な体験でした。司教たち同士の出会いと交わりを通して相互の理解と連帯の絆が深められることにもシノドスの意義があることを悟りました。

テーマに関しては一番心に残っていることは、私自身がキリスト者として、また司教として、本気で改心して福音化されない限り、何も新しいものは生まれてこないという思いを強くしたことでした。

新しい福音宣教は先ず自分自身の絶えざる改心と聖化にかかっているという結論です。「時は満ちた。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」と叫び続けるキリストのみことばが新鮮に響いてきます。

新しい福音宣教は、その内容や方法や手段もさることながら、何よりも先ず私自身の「信仰の質の変化」が大前提であり、素朴で単純なその歩みの一歩一歩から新しい福音

時の話題
ジャンピエロブルーニ神父

教会の第1の役割である信仰を宣べ伝えることについて明確な意識が大切で、どんな時代も、またあらゆる場面で主イエスを宣教して、福音を宣べ伝えるのは根本的なことです。今までは信者がこの使命を果たさなかったというところであれば、現在は誰もキリストの信者にならなかつたでしょうし、イエスにつ

いて知るのは中東の歴史の専門家だけになっていったことでしょう。

今日も信者たちが、主イエスについて話すことなく、誰にも信仰を伝えるために働かなければ、次の時代までにキリスト教が地球から消えてしまふでしょう。事実、多くの家庭において両親が子供たちに信仰を伝えることが困難になっていきます。いろんな国々では「不信仰である世代」の話が出ていますが、日本の教会ではどうなっているのでしょうか。もちろん、宣教の方法、また人々との信頼関係を実現し信仰のレベルで話すためにたくさん方法があり、交流

すること、信仰の伝承形態は状況によって異なり、同じではありません。しかし、すべてのキリスト者が自分の信仰を他の人々に伝えるのは、キリスト者としての使命の大事な役割であることは明確です。

第2バチカン公会議の言葉で言えば「洗礼と堅信と聖体を通して、キリストに合体されたすべての信者は、キリストの体を出来る限り早く完成へと導くために、その体を拡大と伸展とに協力する義務を負っている」（教会の宣教に関する教令36）のです。

黒崎教会主任司教

「みちくさ」を書いて、時にアメリカではオバマ大統領の再選が決まったとニュースが報じていた。在アメリカのニュースキャスターが、こんなコメントをしていた。「両候補は長い選挙戦を闘い、互いの主張、政策をぶつけ合い、国民はそれをつぶさにTVやネットを通じて観て判断し、次第に候補者と国民が一体化していく。候補者が主導権を握っているというより、国民が新しい大統領を造り、育てていくという印象を受けた」と。このコメントを聞いた私たちの日本の政治や教会のあり方などに当てはめてみると、多くを考えさせられた。教会は上意下達の一方通行になっていないか、神の民の状況をどれほど理解し、その声を聞くこととしているか、それを通して司教者が育てられているか。「信仰年」「信仰年」と説教台から声高に叫んでも、反応が来なくて来ない、と嘆く。人々は関心がない、興味を示してくれない、と。しかし、実際、日々の雑務に追われて自分が委ねられた小教区民の生活状況をほとんど把握していない自らを省みる時、まず私たち司教者の回心が第一かもしれないと思う。

「わたしは、エジプトにわたしの民の苦しみをつぶさに見、叫び声を聴き、その痛みを知った」（出エジプト2:25）閉塞感や無力感がある教会で、何の抵抗も反論もせずに、黙って十字架に上って行かれたイエスの十字架に今一度原点を戻していくべきであらうと思う。「キリストの十字架がむなしなものになつてしまわないように」（1コリント1:1）

M

S・ライル神父様
故国で帰天



シヨーン・ライル神父が、10月26日、故国アイルランドの聖コロンバン会本部で帰天した。享年86歳。1957年に福岡教区に赴任、本渡教会、美野島教会、玉名教会で主任司祭を歴任。福岡教区では、家庭委員会を長年担当。また福岡市南区の皿山ファミリースセンターの所長として生命尊重の立場から結婚講座に取り組み、今も続く講座の受講者への影響は大きい。神父が提唱したこの結婚講座は、福岡教区のみならず大阪や横浜教区でも続けられている。2006年に帰国していた。

司祭評議会が信仰年の取り組みを討議

2012年度の第3回司祭評議会が11月6日(火)、開催され、14人の司祭が参集し、教区の宣教司牧について討議した。

まず、2013年の福岡教区の年間テーマについて、信仰年をテーマとし、2013年の教区報新年号で司教がテーマについて文書を掲載することとなった。

信仰年の取り組み、また評議員の現状の取り組みについて分かち合われた。

新しくなった教区組織の各担当者が、教理的側面と司牧的側面を踏まえながら、具体的な取り組みを検討し、今後の司祭評議会で提案していくこととなった。

また、信仰年は来年11月24日までであるが、その開幕ミサを教区として11月23日(教区の日)に、宮原司教主司式のミサとしてささげることが

決定された。

この「教区の日」について、今年の開催の準備状況や当日の予定が報告された。その上で、「教区の日」の開催のあり方について意見交換が行われた。

毎年開催となると、信徒の負担も大きく、教会、信徒の動きと合致していないのではないかと意見も出された。

一方で、一つの目標を長い期間で取り組んでいくために、その年の歩みを振り返ることから前進していくという指摘もなされた。結果、まだ「教区の日」は始まったばかりなので、当面は意識づけるためにも毎年開催を続け、その後、開催のあり方を検討することもあり得るとな

った。そのほか、10月に「キリスト教の信仰を伝えるための新しい福音宣教」というテーマ

「信仰年」を旅するために II
典礼的な面から

深堀 純

第2バチカン公会議の「典礼憲章」が發布されて半世紀が過ぎ、その間に洗礼を受けた人が今では信者の大半を占めるようになりました。その人たちにとって、司祭が会衆に背を向けて、ラテン語でミサを行っていた公会議前の姿は、話しに聞か昔の写真で見ると世界のことに

なりました。その頃の典礼は司祭の独断場で、信徒の出る幕はほとんどありませんでした。

そこで、典礼憲章が目指した刷新の一つは、典礼にもつと信徒が参加し、共同体の行為とすることでした。

すなわち信徒が典礼の内容をよく理解した上で意識して

行動的に参加し、司祭の手を通してだけでなく司祭とともに、またお互いに奉仕し合っていることでした。そのため、ミサでは祭壇が会衆の近くに置かれ、司祭は会衆の方を向き、全員でささげる形になりました。

さらに式文の言葉がラテン語から日本語になり、また聖書の宝庫からみことばが豊かに提供されるようになって、信徒が聖書朗読や先唱(解説)、奉納などの奉仕を受け

持ち、司祭と会衆の間で挨拶の言葉や応唱が生き生きと交わされるようになりました。こうして自分の言葉で賛美と感謝がささげられて、典礼

で開催された世界代表司教会議第13回通常総会(シノドス)に日本代表として参加された宮原司教から、その内容と感

じられたことが報告され、今後、教区報などで信者に向け分かち合っていくことが確認された。

また、筑後地区においては、信徒使徒職協議会が立ち上げに向けて動き出していることが報告された。

正義と平和協議会全国大会を福岡で開催できないかと担当司教より打診があつており、2014年以降に開催するかどうかを次回の司祭評議会

で検討することとなった。今年の最後の司祭評議会に

あたり、司教から、1年の歩みへの協力への感謝と、来年も同じ流れで、信仰年にあたり、信仰を振り返り、その豊かさを味わい、教区、小教区を豊かにしていくために協力を引き続きお願いしたい旨が述べられて閉会した。

が真にキリストとの出会いの場となりました。また初代教会からの長い伝統である詩編歌唱が日本語で行われるようになったことは画期的なこと

でした。典礼への意識的、行動的参加は、単に典礼儀式への参加に限られません。日常生活の

様々の出来事、喜びや悲しさ、困難や成功、また教会共同体の活動のすべてが典礼の中でキリストの救いの出来事と思いに合わせてささげられ、さらにそこから力と希望を得て日常へと戻っていくことも含みます。

まさに、典礼はすべての教会活動とわたしたちの生活が目指す頂点であり、教会のあらゆる力が流れ出る源泉なのです。

和墓地ミサ 三村神父の納骨も



11月11日(日) 14時より、カトリック福岡教区墓地・納骨堂にて、恒例の「死者の月」ミサならびに納骨式が行われ、数名の司祭と多くの信徒の方が共に祈りをささげた。

「五市四郡」に跨る地域を持つ久留米教会で長年宣教司牧に専心し、幼児の中に神を見出し、幼児に福音の種を蒔き続けた三村神父を偲び、久留米教会の信徒、聖母幼稚園の教職員、そして遠く広島からご遺族の方が駆けつけ、納骨に臨み、ミサ、納骨後も祈りを捧げておられた。

ただ「死者の月」のこの11月のミサは、毎年、聖母被昇天に比べて参列

者が少ないように感じられる。

カトリック教会は、生きている者同士の助け合いとともに亡くなった方々との世を

生きている私たちとの関わり、相互扶助である「聖徒の交わり」という大切な教えを受け継いできた。と同時に私たちの希望であるこの信仰を

深め、歩むために教会は、「死者の月」を定めている。お盆といわれる日本の風習の時はもちろんであるが、この11月にも自分たちの近しい方々がお眠りになるこの地を訪れ、祈りを捧げていただきたいものである。

亡くなっても祈り続けているだけ、このことは故人に

北九州墓地で死者のためのミサ



参加者がいちばん多いミサとなった。シノドス(世界代表司教会議)に参加され、帰国されたばかりの宮原司教はミサの説教で次のように話された。

「たくさんの方がここに集まっておられます。皆さんの熱心な信仰が伝わってきます。でも、その信仰が皆さんのお子さん、お孫さんにまで伝わっているでしょうか。ほとんど伝わっていないのではないのでしょうか。そして、そのことでお悩みではないでしょうか。10月にバチカンで開かれたシノドスに参加してきました。公会議開幕五十周年を機会に開かれた今回のシノドスのテーマは「新しい福音宣教」でした。どのようにキリストの福音、

とってありがたいことに違いないし、いずれ自分自身も迎えるこの時、この地に眠るその際に、子どもたちや、子孫孫から祈つていただけるのであるならば、どんなに心強いものであるう。この尊さを是非深め、伝えていきたいものである。

また、この地には、福岡教区でお働きになられた歴代の司教様をはじめ、多くの司祭方も眠っておられる。いずれ迎えるその時、皆さんからお祈りいただければ、どんなにありがたいか、それを励みに、力づけられながら、これから歩み続けたいものである。

光丘教会主任 川上惣一神父

11月4日北九州納骨堂で宮原良治司教主司式で死者のためのミサが行われた。北九州地区の信者および関係者約230人と7人の司祭、教区本部から助祭と神学生が参加。毎年8月と11月に死者のためのミサが捧げられているが、11月のミサでは今までの

ていないのではないのでしょうか。そして、そのことでお悩みではないでしょうか。10月にバチカンで開かれたシノドスに参加してきました。公会議開幕五十周年を機会に開かれた今回のシノドスのテーマは「新しい福音宣教」でした。どのようにキリストの福音、

北九州納骨堂は昭和50年に建設。既存の墓地の改葬を長年にわたって地道に進めてきたが、委員や関係当事者の協力もあって改葬はほぼ終わっている。今後さらに環境整備が行われる予定。今回のミサから大テントが張られ、整地もされていたことからより一層落ちついたミサとなった。小倉教会主任 山元眞神父

ちょっと一息



* 赤ん坊の時からわりやり巨人ファン * 里帰りタンスの中はもう他人

坂牧春妙 深堀正平

待降節 一泊黙想会

自然の美しさに彩られた黙想の家で、祈りのひと時を過ごしませんか。
日程1: 12月8日(土) 16時~9日(日) 15時
テーマ: 「わたしたちの祈り ~ 待ち望むということ ~」
日程2: 12月15日(土) 16時~16日(日) 15時
テーマ: 「主の降誕にみる神の愛」
指導: 中村克徳 神父(御受難修道会) 費用: 9,000円(一泊三食を含む)

カトリック御受難修道会・福岡黙想の家

811-4155宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222(9:30~16:30)・Fax 0940-32-3385
Eメール fmokuso@mvi.biglobe.ne.jp
インターネットで検索



福岡黙想の家 検索

ミサ用ワイン



ヴァイノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)
ご用命 お問い合わせは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰

〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑

カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社

TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

カトリック大名町教会沿革

- 1887年 エミール・ラゲ神父
橋口町の民家にて宣教活動開始
- 1893年 アルフレッド・ルッセル神父
大名町教会現敷地の西側半分を購入
- 1896年 赤レンガ聖堂完成し「勝利の聖母」に献堂
- 1898年 エドワール・ベレル神父
現敷地の東側半分を購入
- 1927年 福岡教区創立
大名町教会司教座聖堂となる
- 1928年 初代福岡教区長フェルディナン・ティリー司教着座
- 1931年 第2代教区長アルベール・ブルトン司教着座
- 1932年 伝道館に「福岡公教神学校」（後の福岡小神学校）開設
- 1938年 木造聖堂献堂
- 1941年 第3代教区長深堀仙右衛門神父着任
- 1944年 深堀仙右衛門神父司教叙階
- 1946年 初の日本人主任司教伊東誠二神父着任
- 1949年 聖フランシスコ・ザビエル来日四百年祭、聖人の聖腕
大名町教会に安置される
- 1970年 第4代教区長平田三郎司教着座
- 1984年 赤レンガ聖堂解体 久留米聖マリア病院へ移築
- 1986年 カテドラル・センター献堂
- 1991年 第5代教区長松永久次郎司教着座
- 2008年 第6代教区長宮原良治司教着座

カトリック大名町教会が創立125周年を祝う



大名町教会は今年創立125周年を迎え、11月18日（日）記念の感謝の祭儀がささげられた。

大名町教会は、1887年、パリ外国宣教会エミール・ラゲ神父によって創立された。神父は福岡市橋口町（現在の中央区天神中央郵便局付近）の民家を借りて宣教の拠点とした。



1887年橋口町の民家で宣教開始



1896年赤レンガ聖堂完成



1938年木造聖堂が献堂



1986年カテドラル・センター献堂

その後、数年して現在地を購入、1896年に赤レンガ聖堂が建立されて「勝利の聖母」に奉献された。1927年、福岡教区創立と同時に司教座聖堂となり、1938年には木造の聖堂が落成献堂された。

戦後邦人司教が赴任、また信徒の増加とともに大名町教会から独立して市内に多くの小教区教会が創立されていった。

現在のカテドラル・センターは1986年に献堂された。これまでに現教区長宮原良治司教をふくめ6代の司教の座が置かれている。

感謝の祭儀は、午後3時から、宮原司教の主司式、同教会出身の司教、歴代の主任司祭・助任司祭など30人の共同司式で行われ、7000人の信徒が参列した。

ミサには、通常主日の午後6時の英語ミサに参加している外国籍信徒も合流、聖書朗読、説教、聖歌などは日本語と英語で行われた。宮原司教は説教で、「125年の節目の時に迎え、キリシタン時代から脈々と受け継がれてきた信仰、またラゲ神父をはじめ先人から受け継いだ信仰の恵みを、自ら生きてさらに豊かなものに、後代に伝えてほしい。ラゲ神父の、聖書を土台にした、また教会の伝統を大切にしたい信仰の営みを模範に信仰年を過ごすように」と諭した。

記念ミサには、かつて大名町教会で洗礼を受けた人たちが多数参列し、同じ信仰に生きる喜びを分かち合っており、感謝のうちに記念式典を終えた。

記念ミサには、かつて大名町教会で洗礼を受けた人たちが多数参列し、同じ信仰に生きる喜びを分かち合っており、感謝のうちに記念式典を終えた。



講師の伊藤神父は、「日常の食を通して、私たちが受けているもの、それは、単に食物だけではなく、作ってくれている人達の愛情、思いも一緒に食しています。『食』は身近な人と人、家族、隣人とのつながりを生み出す『窓口』です。また、特に子どもたちに、多くの尊いいのち（動物、植物）によって支えられていること、一人ひとりの『いのちの大切さ』に気づいてほしい」と熱く語った。

熊本地区信徒協「食と救い」で研修会

2012年10月28日（日）カトリック健康教会において、熊本地区信徒協主催による研修会が行われ、熊本地区各教会から約180人の信徒が参加した。この研修会は宮原司教の年頭メッセージ「信仰生涯学習」を目標に企画したもの、と主催者は語った。講師として招かれたのは、東京教区司教で日本カトリック神学院養成者でもある伊藤幸史神父。テーマは「食と信仰ー風土食（ふうど）」。この「食と救い」の内容は、成人信徒向けというより、今から大人になる子ども達に必要な内容であると認識した提案者は、この熊本地区信徒協の研修会に先立ち、ミッシェンスクールへの働きかけを行ってきた。

2012年8月31日、大牟田明光学園はこの提案を受けて、教職員研修として「食と救い」をテーマに実施。現代の食の実態、食の大切さ、さらに食とキリスト教の関係を学習。そこから同校は、対象をカトリック信徒、生徒の保護者並びに一般に広げ、10月27日、「食と救い」を公開講座として主催している。

さらに、10月31日には、熊本信愛女学院において中・高生全員・教職員・保護者を対象に講演会が行われた。

ここ数年、教区内で開催された昨年7月の「カトリック幼稚園連盟全国大会」、今年5月開催の「日本カトリック女性団体連盟福岡総会」などで、「食」の大切さを提唱している佐藤初女さんや内田美智子さんの講演などが訴えること、更に現代社会の中で食に対する注目度などを考えると、「カトリック教会が、食の宗教であることをもっと自覚して、幼稚園・保育園をはじめとして、学校関係者、カトリック事業所、それに教会が一致して、「食」をテーマに何か動きができるのではないか、「食」を切り口に、一致した動きができるのではないか」と、この提案者は語っている。

子ども達は、これからを担う宝物

小教区誕生から125年間、どれだけの子どもたちがここで成長し、教会を支えてきてくれたのでしょうか。

大名町教会の魅力は都会っ子らしからぬ優しく素直でシャイな子どもたちの存在です。主日のミサには侍者の行列ができ、大学生や高校生は小さなお友達の世話がとても上手で、非常に仲が良く、教会が好きで集まっています。信仰年と重なった節目のとき、



大名町教会の子どもたちは神様の宝物です。イエス様のことを受けとめ、これからの大名町教会を担う子どもたちを大切にしたいと思っています。

き、信仰の第一歩はイエス様の生き方、思いにならうことだと思ひ起す必要があると感じます。

「子どもたちを来させなさい」（マタイ19・14）、「わたしの名のためにこのような一人の子どもを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」（マタイ18・5）。大名町教会の子どもたちは神様の宝物です。イエス様のことを受けとめ、これからの大名町教会を担う子どもたちを大切にしたいと思っています。

糸島教会の11月先人への感謝と青空運動会

先人へ感謝の
聖家族墓地

糸島教会は献堂22年という未だ歴史の浅い教会ですが、8月と11月に恒例の墓地ミサが行われます。

墓地はこの地に教会墓地が欲しい、お墓を建てたいとの信徒の強い思いが実って5年程前に出来たものです。聖家族墓地と愛称される私たちの墓地は、聖堂を出て10秒も歩けば到着です。統一された簡素な佇まいのお墓が並んでいます。

今は亡き平田三郎司教様をはじめ、先人方が先見の明をもって広い土地を残してくださったことで実現でき、感謝の念を深くしています。そして主日毎に、こんな身近に亡き人を感じながら過ごせることの幸せを思います。

教会の墓地は、お墓のある人たちの場所ではありません。



日が落ちて暗くなってきた11月3日の墓地ミサで、主任の竹内神父様は、「死というものを恐れない人はいないと思います。でもこれを神様の救いの実現の時、と捉えるならば少しは安心します。死者の日はキリストを信じる者が、生者、死者の区別を超えてお互いが通じ合い助け合っているという信仰に結ばれていると言うことを知るべ

きです」と話されました。

糸島教会では、これまで信徒会館がなく行事の度に不自由をしていますが、立派な信徒会館が完成し、聖堂の改築が目下行われています。

ふれあいバザーと
ミニ運動会

11月4日(日)、いつもより遅めのミサが10時から取り行われた後、青空とは少し言いづらい空の下、バザーとミニ運動会が行われました。

マリア会の皆さんの心のこもった手作りケーキ、から揚げなど数々の品物が所せましと並べられていました。また、カレーやおでん、焼きたてのワッフルなど、趣向を凝らした食べ物も沢山準備され、ノンアルコールビールも準備されるなど、飲める人も飲めない人も共に楽しむことが出来ました。

色んなものが短い時間で売り切れる盛況ぶり、皆さんお腹を満たし、少し赤い顔の方も見受けられました。暫くして、ミニ運動会の始まりです。パンくず競争、ピン釣り競争、風船割り、ムカデ競争と玉入れの5種目で赤・白に分かれて開始です。最初は白組が大きくリードし、圧勝と思われましたが、気迫のこもった応援に刺激されたのか紅組が持てる力を発

揮し、風船割りでは、けつ弾力がものを言い、あれよという間に追いつきました。

最後は玉入れ、全員参加の競技です。皆さんのパワーが集中、まれにみる接戦で紅組が一個上回り勝利をつかみま

いつでもどこでも福音宣教を考えて
大牟田教会の『分かち合いと実践』世界宣教の日で
ミサの中で分かち合い

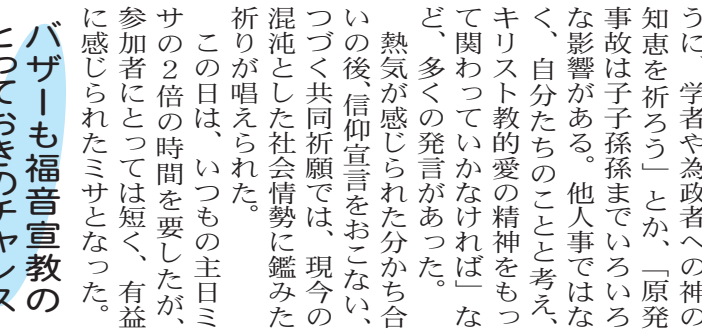
大牟田教会では、10月21日(日)主日のミサ中でグループに分かれて、「世界宣教の日」に因んでの分かち合いを行った(II写真)。

まず、説教の後に、「宣教と原発廃止を考える」と題して、信徒の蓮尾昭子さんが「日本司教団のメッセージ」と現地の方々の声」を資料に基調講演をした。

講師から配布されたプリントを目で追いつながり、講師の熱のある話しを聞いた後、話に聞き入っていた会衆は、大人の数グループ、外国人グループ、子どものグループになり分かち合いに入った。「原発廃止の司教団側」に立つて、私たちも署名活動をしたが、個々に何かできることがあるのではないかと、

した。この結果、勝利したのは紅組でした。

今年もみんなが力を合わせ、イエス様の「隣人を愛せよ」の言葉通り、ともに手を取り合ったことで沢山のお恵みが頂けたことに感謝！

いつでもどこでも福音宣教を考えて
大牟田教会の『分かち合いと実践』世界宣教の日で
ミサの中で分かち合い

大牟田教会では、10月21日(日)主日のミサ中でグループに分かれて、「世界宣教の日」に因んでの分かち合いを行った(II写真)。

まず、説教の後に、「宣教と原発廃止を考える」と題して、信徒の蓮尾昭子さんが「日本司教団のメッセージ」と現地の方々の声」を資料に基調講演をした。

講師から配布されたプリントを目で追いつながり、講師の熱のある話しを聞いた後、話に聞き入っていた会衆は、大人の数グループ、外国人グループ、子どものグループになり分かち合いに入った。「原発廃止の司教団側」に立つて、私たちも署名活動をしたが、個々に何かできることがあるのではないかと、

れあいバザー」がミサ後に行われた(II写真)。



「被災者のために続けて支援する必要がある」とか、「新しいエネルギー開発が進むように、学者や為政者への神の知恵を祈ろう」とか、「原発事故は子孫孫までいろいろな影響がある。他人事ではなく、自分たちのことと考え、関わっていかねければ」など、多くの発言があった。

熱気が感じられた分かち合いの後、信仰宣言をおこない、つづく共同祈願では、現在の混沌とした社会情勢に鑑みたりが唱えられた。

この日は、いつもの主日ミサの2倍の時間を要したが、参加者にとっては短く、有益に感じられたミサとなった。

バザーも福音宣教の
とっておきのチャンス

翌週の28日(日)には、恒例の「教会と幼稚園の合同ふれあいバザー」がミサ後に行

稲穂が色づく頃の
筑後地区スポーツ大会

9月2日夏休み最後の日曜日。太刀洗ドリームセンターに於いて筑後地区親善スポーツ大会が行われた。今年で27回目のこの大会は、二日市本郷、今村、鳥栖、小郡、久留米、大牟田の7つの教会が一堂に会し、御ミサとスポーツを通して親善をはかる集いである。始まりは、宮原司教様司式のミサ。約350名程の参加者が祈りを共にした。

司教様は説教の中で、車の運転と交通法規の話をもとに(宮原司教様3回連続ゴールド免許)私達の信仰がみせかけであってはならない、隣人を自分のように愛するのための祈りとい行いが大切だと話して下さった。

競技の始まる前には、8月20日に帰天された三村邦明神父様のため黙祷が捧げられた。鳥栖教会、高校二年の梅木慎二君が、「私達は互いの信仰を深め、愛と平和の使者になることを誓います。」と選手宣誓をした。

プログラムの、未就学児の競争、大玉転がし、綱引き等、全8つに及ぶ。各教会がプログラムを1つずつ担当し、皆で盛り上げていくという在り方である。競技はどの種目も熱戦が繰り広げられ、応援にも熱が入った。私達は、年に一度のこのスポーツ大会で集い合えることを喜びとしている。どんな形であれ、イエス様のもとに集まった何千人もの人々のように、祈りそして互いに絆を深め、信仰の喜びを分かち合うことに大きな意義があるように思う。さらに召命の恵みがもたらされるよう、この集いを通して願いたい。

福岡カリチエス対
長崎連合ダルク 秋満喫

11月19日(月)、秋晴れの下、日本カトリック神学院福岡キャンパスグラウンドで福岡・長崎連合ダルク(監督コー・マルセル神父)と福岡カリチエス(福岡教区司祭団・監督下町豊重神父)のソフトボールの試合が行われた。

一試合目は中村彰神父と竹内英次神父がそれぞれ2本のホームランを放つ等でカリチエスが15対1でダルクに快勝した。

試合展開となった。2試合目はダルクの好投手の速球が冴えわたり、点を取れなかったカリチエスだったが、大塚了平神父がホームランを打つ等、徐々にバットが振れ出し、結果はカリチエスが17対10でダルクを下した。

目立ったのは、カリチエスが2つのダブルプレーを取ったことと、谷口尚志神父の外野からの速返球により、相手のホームインを見事に阻止したことである。試合は抜きつ

抜かれたのシーソーゲームとなり、白熱した展開に選手も応援団も燃え上がりを見せた。

この親善試合の最後に長崎から来ていた2人の少年が「今年、長崎の中町教会で洗礼を受けます」とダルク監督のコー・マルセル神父より紹介され、温かい拍手が贈られた。また、この2試合は、コー・マルセル神父の要望により、「現在、すい臓がんで苦しむダルクの一員のため」に捧げられたものとなった。試合後は、双方共に堅い握手をし、再会を誓った。交流が保たれるよう、今後も続けて欲しいものである。

2013年
カトリック教区カレンダー

昨年大好評だった東日本大震災復興支援チャリティーカレンダー「北に祈る」は、今年は福岡教区・仙台教区・さいたま教区・横浜教区・新潟教区の5教区を制作いたしました。1冊購入していただく1,000円がカトリックジャパンと仙台教区の被災地支援活動のために寄付されます。(新潟教区カレンダー)の義援金は、新潟司教館建設のために寄付されます。

●ご注文方法 フォックス・電話またはイー・ピックスのホームページ
(http://e-picks.jp)にてご注文ください。振込または郵便で発送いたします。
●お支払い方法 お支払い方法は商品と同封する郵便払込用紙にて後払となります。
(振込手数料は弊社負担)

第55回大牟田教会チャリティー
1,000円
好評発売中!
各2000部限定

祈りの四季

販売価格1冊/2,000円
(1,000円の義援金(8割)と送料・税)

イー・ピックス出版

〒802-0002 福岡市東区東門外1-1-1 福岡市東区東門外1-1-1
TEL 01182-26-3334 / FAX 01182-26-3344
URL http://www.epi.co.jp E-mail epi@epi.co.jp

第65回 市民クリスマス
福岡市の皆さんとクリスマスを祝おう!

日 時: 2012年12月10日(月) 18時開場 / 18時半開演
場 所: 福岡市民会館大ホール(福岡市中央区天神5) 入場無料 / 手話通訳付
トーク&コンサート: 沢 知恵さん
主催: 福岡市民クリスマス実行委員会
*キリスト教各教派を越えて企画しています。キリストの誕生をみんなで祝い、
平和な世界を求め祈りの日にしましょう。ご家族でご来場ください。

福岡地区聖書週間特別講座に参加して



11月11日(日)、この日は特別な大切な日。7歳で逝った娘の誕生日。午後からは納骨堂に行く。だから今回の聖書講座のお手伝いをパスしても心は傷まない。朝、主任司祭にその旨を伝えると、今日は教区で行事が重なり手伝いも少ない、娘は天国にいるよと、あつけない寄り切られた。心は娘に引きずられたまま、身体は浜々大名町教会に。2012年度最後の講座は、大分教区の山下敦神父であった。チラシにあった堅い肩書きとは正反対で、お若く眼鏡の奥の柔和な眼差しと、全てを包み込むような暖かさが滲み出ている笑顔、今ここにいる自分にもう迷いは消えていた。マルコ福音書の中核と

典礼シリーズ ⑦

【質問】「待降節の色は、四旬節と同じ紫ですが、四旬節のように断食や悔い改めが言われないようですが、なぜでしょうか。」

【質問に答えて】古代からキリスト者がかつとも大切にしていたのは、日曜日に「主の復活」を祝うことでした。そのために、主が復

活された日曜日が「主の日」(黙示録1・10)とも呼ばれるようになり、二世紀になると、この一週間毎の主の復活の記念とともに、ユダヤ教の過越祭にならって、一年に一度盛大に「復活祭」を祝う習慣が生まれて来ました。そして、325年に開かれたニケーア公会議で、「春分の日以降の満月の次の日曜日」を、一年に一度盛大に祝う主の過越(復活祭)の日とすることが決議されました。この復活祭に次いで、教会がおこなってきた最古の祝いが「主の降誕」です。四世紀の半ば以降、降誕祭はもともと不滅の太陽神の誕生日とされていた12月25

など沢山の生きるヒントを頂いた。私の信仰がいかに自分善がりの真似事であったろうか。今日なぜ私はここに来なければならなかったのか、神

聖コロンバン会の司祭の墓碑が完成

熊本



11月20日、聖コロンバン会の墓と記念碑が「熊本カトリック共同墓地」に完成しました。その完成を感謝して、100人ほどの信徒が集まり、聖コロンバン会の管区長を初め6人の司祭の司式により、感謝ミサが行われました。墓と記念碑の建設は、オカ

のみ旨と、幼い娘からの天からのメッセージが聴こえてきます「ママ、幼子のようにならなければね」と。西新教会信徒 柴田須磨子

日をキリスト教化するため、この日に固定されて祝う習慣が広がってきました。ローマの教会が中心となつて整えてきた典礼暦は、この二つの大きな祭日(主の復活と主の降誕)を二つの軸としていました。そして、それぞれ主の復活を準備する期間(四旬節)が四世紀後半、主の降誕を準備する期間(待降節)が六世紀後半に導入されるようになったと言われています。ですから、歴史的にみて四旬節の方が早く取り入れられ、それに倣う形で待降節が取り入れられたために、当初、待降節も四旬節と同じような断食や悔い改めの色合い

が強かったようです。しかし、次第に、待降節固有の意義が見出されるようになり、1917年に公布された旧教会法では、待降節には断食を強要しなくなりました。そして1970年1月1日より発効されている現行の典礼暦に関する一般原則(39)において、待降節の性格が、次のように説明されています。「待降節は二重の特質を持つ。それはまず、神の子の第一の来臨を追憶する降誕の祭典のための準備期間であり、また同時に、その追憶を通して、終末におけるキリストの第二の来臨の望望へと心を向ける期間でもある。この二つ

の理由から、待降節は愛と喜びに満ちた希望の時であることが明らかにされてくる。」この二重の到来(ラテン語でadventus)が、「待降節」の語源です。すでに救い主として神の子イエス・キリストがこの世にいられた(降誕)ことを毎年盛大に祝いながら、それに重ね合わせて、人類の救いのために死んで復活し、昇天されたキリストがわたしを迎えるために再び来られる(再臨)のを待つという「愛と喜びに満ちた希望の時」という理解こそ、待降節の意義づけとしてふさわしいということなのです。このような意義付けのもと

に、花による祭壇の装飾について、「待降節には、この季節の特徴にふさわしい節度をもって、祭壇を花で飾ることが出来る。ただし、主の降誕の満ちあふれる喜びを先取りしないようにする。四旬節には、祭壇を花で飾ることは禁じられる」という規定が「ローマ・ミサの典礼書の総則(305)の中に見られます。わたしたちが準備して待つ以上に、主イエスが謙虚に近づいて来られるその愛に、喜びと希望を見出すことが出来ますように。良いクリスマスをお迎えください。日本カトリック神学院 院長 白浜満神父

聖マリア学院大学被災地ボランティア報告会 開催



11月10日(土)午後、久留米市の聖マリア学院大学で行われた「マリア祭」の中で、東日本被災地ボランティア報告会が行われた。

今回の報告会は、ボランティアサークル「ふいりあ」のメンバーが企画。「ふいりあ」は、昨年釜石ベースでのボランティア活動に参加した学生が、被災者の方達が自分達に望んでいるのは「忘れないうこと」であり、そのために自分達ができることを考え、被災地とのつながりを持ち続

けたいとの目的で立ち上げたサークルである。報告会には約50人が来場。今年の9月に釜石ベースと大槌ベースでそれぞれ5日間行ったボランティア活動の内容の紹介、さらにベースでの日々を通じて感じたことや学んだことを写真とともに発表した。

その後、多賀城市で撮影された震災発生時の状況を記録したDVDを上映し、報道されることの少なくなってきた震災の出来事を来場者とともに見つめ直した。

復興への道のりには課題が山積みであること、支援の手が必要であること、この震災の出来事を風化させないために「忘れないこと」が何よりも大切であるという学生のメッセージが伝わる報告会であった。

今後も「ふいりあ」では、まず自分自身が被災地のことを考える、そして多くの人にも考えてもらおうという機会を提供し、簡単なようでも意外と難しい「忘れないこと」の実践を目指すことにしている。



☆かみさま あかね
ごめんなさい ありがとう
おねがい
シャイロット・ストウエル
グーデン・ストウエル
女子パウロ会 文 訳



「わたしはどんなことをしていても かみさまみててくださいね。幼いときに身につけた「ごめんなさい」「ありがとう」「おねがい」の心は一生の宝です。女子パウロ会 発行 3冊セット価格 税込価格1260円

☆クリスマスのうたものがたり
文 中井 俊巳
絵 永井 泰子



『きよしこのよる』はどうしてうまれたの? クリスマススイートの朝、教会のオルガンが鳴りません。「ミサのうたはどうしよう」頭を抱える神父さまに神さまのメッセージが舞い降りて。1818年オーストリアの小さな村の教会で生まれた「きよしこのよる」誕生物語。
ドン・ボスコ社 発行
税込価格 987円

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市上白水 5-11-102 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅(新築・改築工事)
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い
セント・ポール FUKUOKA
キリスト教書籍・信信用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日/AM 10時~PM 5時40分
日・祝日/AM 11時~PM 4時(水曜日定休日)
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601
URL:http://www.pauline.or.jp

救いの秘儀を知り、追体験し、生き、伝える

福岡地区聖書講座

年間テーマ：福音 イエスとの出会い
テーマ：『ルカ福音書を読む』
日 時：2013年1月27日(日) 14:00～16:00
講 師：森山信三神父(西新教会主任司祭)
場 所：カトリック大名町教会1階講堂
主 催：福岡地区信徒使徒職協議会 聖書典礼部会

北九州地区聖書講座

年間テーマ：『ともに学び 生活の場で伝えよう』
～ルカによる福音書が呼びかける信仰～
日 時：2013年2月3日(日) 14:00～16:30
講 師：L. ベリオン神父(行橋教会主任司祭)
場 所：カトリック小倉教会
主 催：北九州地区信徒使徒職協議会 聖書部会

聖書に集う会

日 時：12月3日(月) 18時30分～20時
場 所：サンパウロ福岡宣教センター3階会議室
講 師：鈴木信一神父(聖パウロ会司祭)

震災のための祈りのリレー

日 時：12月11日(火)
6:40 ミサ～19:00 夕の祈り(テゼの祈り)
場 所：聖パウロ修道会福岡修道院
問合せ先：fr05abe19ko@yahoo.co.jp /Br 阿部光一

福岡教区広報室アドレス

http://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案 内 板

会合と催し

12月のこよみ

福岡黙想の家ご案内 12月

1日(土)～7日(金) (空室:30室)
5日(水) 休館日
8日(土)～9日(日) 待降節一泊黙想会(参加者募集中)
8日(土)～9日(日) 聖マリア在俗会 会議 (空室:20室)
10日(月)～14日(金) (空室:30室)
15日(土) 福岡チェナクルム
15日(土)～16日(日) 待降節一泊黙想会(参加者募集中)
30日(日)～1月3日(木) 休館日
[2013年1月]
4日(金)～5日(土) JNCF黙想会 (空室:15室)
6日(日)～31日(木) (空室:30室)
*利用予定によっては充分余裕がある場合があります。
*宗像市名残1056 ☎0940・32・3222 FAX0940・32・3385
Email: fmokuso@mvi.biglobe.ne.jp
インターネットで検索 **福岡黙想の家** **検索**

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：御聖体、愛の秘蹟
・日 時：12月13日(木) 10時～14時半
・内 容：終末の宴
指 導 者：フランコ・ソットコルノラ神父(真命山院長)
ダニエレサルツィ・サルトリ神父
Sr.マリア・デ・ジョウルジ
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
・2013年間テーマ：イエス様に学ぶ祈り
☎0968・85・3100 FAX0968・85・3186・玉名郡和水町蛸浦
1391-7・E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：12月15日、1月5日、1月19日 10時～12時
場所：カトリック大名町教会小聖堂

2日(日) 待降節第1主日(C年)／宣教地司祭育成の日(献金)
新田原教会堅信式
3日(月) 聖フランシスコ・ザビエル司祭
4日(火) 大神学院常任委員会(～5日 福岡)
6日(木) 常任司教委員会
7日(金) 初金ミサ(浄水通教会)／サーリスの集い
8日(土) 無原罪の聖マリア
聖マリア病院・新病棟祝福式
9日(日) 待降節第2主日
黒崎教会堅信式
12日(水) 大神学院講話・ミサ聖祭
召命祈願ミサ(カテドラル19時)
↑M. コーフィールド(2001年島崎教会)
13日(木) 聖ルチアおとめ殉教者
真命山祈りの集い
14日(金) 十字架の聖ヨハネ司祭教会博士
↑J. モラハン(2002年水俣教会)
16日(日) 待降節第3主日
23日(日) 待降節第4主日 天皇誕生日
24日(月) 降誕祭夜半のミサ(カテドラル 21:30)
25日(火) 主の降誕
26日(水) 聖ステファノ殉教者
27日(木) 聖ヨハネ使徒福音記者
28日(金) 幼子殉教者
30日(日) 聖家族の主日
31日(月) 大晦日
2013年1月
1日(火) 神の母聖マリア(カテドラル 10:00) 世界平和の日
↑C. バスチ(2002年黒崎教会) 元旦
6日(日) 主の公現
■ゴチックは司教日程

◆ **福岡**
■聖霊による刷新 福岡祈りの集い(日時) 毎週月曜11時(場所) 大名町教会1階(内容) 賛美と感謝の祈り・聖書のわかちあい(問合せ先) ☎092・521・2503 蓮尾
■在セフランシスコ会集会(日時) 12月9日(日) 14時から16時(場所) 高宮フランシスコ会修道院在会会集会所(指導) エドウィン神父(高宮教会主任)(問合せ先) ☎092・843・5831 岩崎
■グレゴリオ聖歌を歌う会(日時) 12月18日(火) 11時(場所) 聖クララ寮(内容) ロラテチェリ(待降歌) 他(問合せ先) ☎096・380・5686 堺敬子
■虹の会(日時) 1月12日(土) 13時半から(場所) カトリック大名町教会3階(対象) 子どもを亡くした親の会です。(会費) 600円(連絡先) ☎090・1162・6395 柴田
■第81回福岡ホスピスの会勉強会(日時) 1月13日(日) 14時(内容) ホスピスからの便り(講師) 野辺多美子氏

◆ **北九州**
■北九州召命を共に祈る会(日時) 12月13日(木) 15時(場所) カトリック飯塚教会(内
〔参加費〕一般1000円／会員500円(問合せ先) ☎092・791・7532
■福岡地区結婚講座(日時) 1月12日(土) 2月9日(土) 毎週土曜日18時半(場所) カトリック大名町教会(参加費) カップルで1万円(問合せ先) ☎092・741・3687 *カップルでの参加が原則
■ザビエル合唱団練習日(日時) 1月19日(土) 13時から(場所) カトリック大名町教会4階(指導) 新垣壬敏氏(参加費) 2000円(問合せ先) ☎0940・33・5423 橋本 団員募集中
■美野島司牧センターホームレスの方に手作りのお昼ごはん毎週火曜日10時半から(場所) ホームレス支援夜回り毎週金曜日20時(路上からアパートに入居した方を訪問第三土曜日13時(問合せ先) ☎092・431・1419 コース神父

◆ **熊本**
■日本カトリック看護協会福岡支部例会(日時) 12月2日(日) 13時半(場所) イエズスの聖心病院(熊本)(問合せ先) ☎096・352・7181
■熊本地区結婚講座(日時) 1月12日(土) から2
〔参加費〕一般1000円／会員500円(問合せ先) ☎092・791・7532
■福岡地区結婚講座(日時) 1月12日(土) 2月9日(土) 毎週土曜日18時半(場所) カトリック大名町教会(参加費) カップルで1万円(問合せ先) ☎092・741・3687 *カップルでの参加が原則
■ザビエル合唱団練習日(日時) 1月19日(土) 13時から(場所) カトリック大名町教会4階(指導) 新垣壬敏氏(参加費) 2000円(問合せ先) ☎0940・33・5423 橋本 団員募集中
■美野島司牧センターホームレスの方に手作りのお昼ごはん毎週火曜日10時半から(場所) ホームレス支援夜回り毎週金曜日20時(路上からアパートに入居した方を訪問第三土曜日13時(問合せ先) ☎092・431・1419 コース神父

◆ **佐賀**
■佐賀祈りの集い(日時) 11月10日(土) 10時。毎月第1土曜日(場所) 佐賀カトリック会館(内容) ミサと祈り(問合せ先) ☎095・2・30・8347 吉武
◆ **熊本**
■日本カトリック看護協会福岡支部例会(日時) 12月2日(日) 13時半(場所) イエズスの聖心病院(熊本)(問合せ先) ☎096・352・7181
■熊本地区結婚講座(日時) 1月12日(土) から2
〔参加費〕一般1000円／会員500円(問合せ先) ☎092・791・7532
■福岡地区結婚講座(日時) 1月12日(土) 2月9日(土) 毎週土曜日18時半(場所) カトリック大名町教会(参加費) カップルで1万円(問合せ先) ☎092・741・3687 *カップルでの参加が原則
■ザビエル合唱団練習日(日時) 1月19日(土) 13時から(場所) カトリック大名町教会4階(指導) 新垣壬敏氏(参加費) 2000円(問合せ先) ☎0940・33・5423 橋本 団員募集中
■美野島司牧センターホームレスの方に手作りのお昼ごはん毎週火曜日10時半から(場所) ホームレス支援夜回り毎週金曜日20時(路上からアパートに入居した方を訪問第三土曜日13時(問合せ先) ☎092・431・1419 コース神父

2012年12月ご降誕祭・元旦などのミサ時間											
教 会		24日	25日	31日	1日	教 会		24日	25日	31日	1日
		降誕前夜	降誕祭	大晦日	元旦			降誕前夜	降誕祭	大晦日	元旦
福岡地区						直 方	20:00	9:00			12:00
系 島	20:00	9:00			10:00	水 巻	19:30	10:00			10:00
今 村	20:00	9:00			9:00	門 司	19:30	9:30	6:30		10:00
大 楠	20:00	10:00			10:00	湯 川	19:00	9:00	24:00		10:00
大 牟 田	19:00	10:00	10:00		10:00	行 橋	20:00	10:00	24:00		
小 郡	20:00	10:00	24:00		10:00	豊 津	18:00				10:00
久 留 米	19:00	9:00	24:00		10:00	若 松	19:00	10:00			10:00
	22:00					佐賀地区					
古 賀	19:00	9:00			10:00	伊 万 里	20:00	10:00			11:00
	24:00		23:30			鹿 島	18:00	11:00			11:00
笹 丘	18:00	8:00			11:00	唐 津	19:00	10:00			10:00
	20:30	10:00				佐 賀	19:30	10:00			11:00
浄 水 通	18:30	10:00			10:00	多 久		11:00			11:00
大 名 町	19:00	10:00			10:00	武 雄	20:00				9:00
	21:30	16:00				鳥 栖	19:30	9:00	19:30		10:00
能 古 島		15:00			15:00	基 山					
高 宮	19:00	10:00	18:30		11:00	馬 渡 島	19:00	8:00			8:00
茶 山	19:00	10:30			10:30	呼 子	19:00	8:00	6:00		9:00
西 新	19:00	10:00			10:00	松 島		15:00	15:00		
	22:00					熊本地区					
箱 崎	19:00	10:00	18:00		10:00	荒 尾		8:00			8:00
光 丘	19:00	6:30	9:30		0:00	大 江	18:00	10:00			8:00
		9:30			10:00	帯 山	20:00	10:00	19:00		10:00
二 日 市	19:30	9:00	10:00			菊 池	19:00	8:30	6:30		10:30
			24:00		10:00	山 鹿	20:30	10:30			14:00
本 郷	18:00	9:00			10:00	健 軍	19:30	10:00	6:30		10:00
	21:00					崎 津	21:00	8:00	6:30		10:00
吉 塚	19:30	10:00	10:00		10:00	島 崎	19:00	10:00	24:00		11:00
南 粕 屋						修 道 院		7:00			
老 司	19:30	9:30			9:30	玉 名	19:00	10:00			10:00
北九州地区						手 取	19:00	10:00	24:00		10:00
飯 塚	19:00	9:00			9:00		22:00				
黒 崎	18:30	9:30	10:00		10:00	人 吉	19:00	10:00			11:00
小 倉	17:30	7:00	7:00		10:00	本 渡	19:00	10:00	10:00		10:00
	20:30	10:00				水 俣	20:00	10:00	24:00		10:00
新 田 原	20:00	9:00	24:00		10:00	武 蔵 丘	19:30	10:30	24:00		10:30
田 川	18:00	11:00			10:00	恵 楓 園		9:00			9:00
天 神 町	21:00	11:00			11:30	八 代	19:00	10:00			
戸 畑	20:00	10:00			10:00	修 道 院					11:00

COSMOS

スポーツ用品・OA・文具

コスモス

〒830-1224 三井郡大刀洗町鶴木67-3

TEL 0942-77-3199

代表者 ペトロ 平田 清

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

医科・歯科臨床研修指定病院 総合周産期医療センター
地域医療支援病院 がん診療連携拠点病院
救命救急センター 地域災害拠点病院

*入院基本料(一般病棟7:1)
〒830-8543
福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

一緒に働きたいませんか?
=募集=
医師・看護師・医療技術職

痛みの相談室

いくま整骨院

受付時間 平日: 9:30 ~ 12:00
14:30 ~ 20:00
土曜: 9:30 ~ 15:00
休診: 日曜・祝祭日

福岡市西区姪浜駅南 1-7-12- 2F
TEL 092-884-0134
ペトロ 生熊吉公

Merry Christmas

12月24日までは日曜日(11:00-15:00)も開店します!

メディアによる福音宣教のために...

サンパウロ福岡宣教センター

10:00~18:00(月~土) / 日・祝日休業 / 地下鉄赤坂駅より徒歩3分 *駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930